

大麦管理特報

令和8年9月
黒東地域農業技術者協議会

大麦生産では、苗立ちや初期莖数を確保するための排水対策が最も重要です。
稲刈り後、速やかに額縁排水溝を設置しましょう。

あわせて、10月上旬までの適期は種作業により苗立ちを確保しましょう。

1 排水対策の徹底

- ・水口を止め、額縁排水溝や基幹排水溝を設置しましょう。透水性の悪いほ場では心土破碎で乾きを促進しましょう。
- ・トラクタの車輪跡などに水がたまらないよう、ほ場が乾いた状態で作業を行いましょう。
- ・溝は連結し、途中で水が停滞しないように手直しを行い、排水口を深く掘り下げましょう。

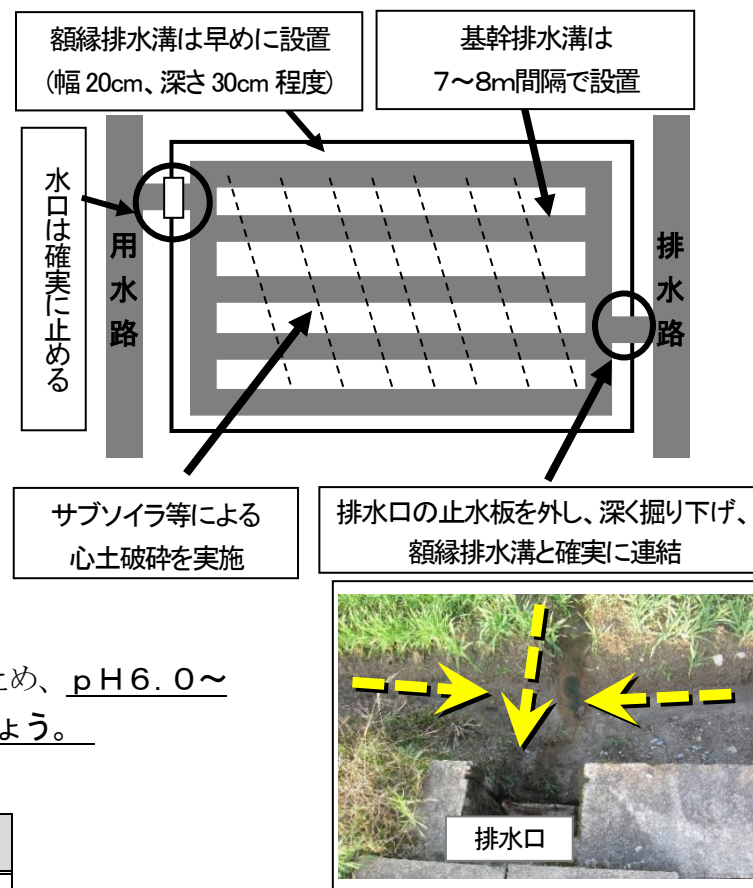


図 溝の連結と排水口の掘り下げ

2 土壌改良資材の施用

酸性土壌では大麦の生育や登熟が不良となるため、pH6.0～6.5を目標に、石灰質資材を確実に施用しましょう。

○石灰質資材の施用の目安

資材名	10a当たり施用量
珪酸石灰	100kg以上

※作付前の土壌pHが低い場合（5.5未満）は、施用量を増やしましょう。

3 種子消毒の徹底

雲形病などの発生を防ぐため、必ず種子消毒を行いましょう。

防除法	処理方法及び注意事項
薬剤粉衣	ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%粉衣（種子10kgに水200mL、薬剤50gを入れて均一に混和する。）

4 適期は種作業の実施

出芽・苗立ちの安定確保のため、10月上旬までには種作業を実施しましょう。

「耕起・砕土・施肥・は種・作溝」の一連の作業は、ほ場が乾いた状態で1日で実施しましょう。

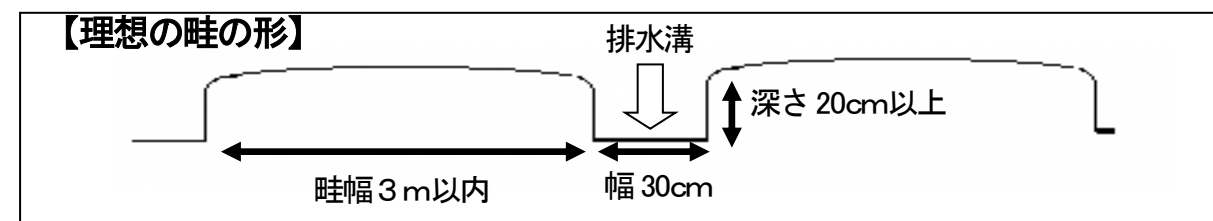
(1)耕起・畝立て

- ・耕起作業は、トラクタの速度を低速にし、できるだけ土を細かくし、砕土率60%以上を確保しましょう。土壌の乾きが悪いと土を練ってしまうため、砕土率が悪くなります。

※降雨などの土壌水分が高い条件での播種は、苗立不良や初期分げつの減少につながるため、慌てず、土が乾くのを待ってから播種を行いましょう。
なお、降雨が長引きドリル播種が困難な場合は、表面播種に切り替えましょう。



※畦幅は3m以内とし、排水溝（幅30cm、深さ20cm以上）を設置し、排水口に確実に連結しましょう。



(2)は種量の厳守、適正なは種深度の確保

- ・は種量を厳守し、適正な苗立数を確保しましょう。は種量が多すぎると過剰な穂数などにより、低収の原因となります。
- ・は種深度は深さ3cm程度としましょう。は種深度が深いと生育が不揃いになるとともに、湿害を受けやすくなります。

○は種量の目安

は種時期	目標苗立数 (本/㎡)	は種量(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月6半旬	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0

適正なは種作業で、
苗立数を確保する！

(3)適正な基肥の施用

基肥の施用量は基準量を遵守し、地力が高い地域等では基肥を減肥しましょう。

過剰な施肥は細麦や倒伏、品質低下の原因になります。

○基準基肥量

肥料名	10a当たり施用量
エコ大麦44号	45kg

(4)除草剤の散布

雑草が繁茂すると肥料成分が収奪され大麦の生育が抑制されることから、除草剤の適期散布により雑草防除を行い、初期生育を確保しましょう。

薬剤名	10a当たり散布量	散布時期	注意点
ゴーゴーサン細粒剤F	5～6kg	播種後出芽前 (雑草発生前)	表面散播のほ場には使用 しないでください。
ゴーゴーサン乳剤	300～500mL (希釈水量70～150L)		